

梓川地区 市長と住民の「こんだん会」報告レポート 【ダイジェスト版】第1号

○ 詳細版のレポート（全編）は、こちらからご覧ください。
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/65225.pdf>



9月15日、市長と住民の「こんだん会」を開催しました。4つのテーマに分けて話し合っていたいただきました。梓川の将来に対する皆さんのあふれる思いはとどまるところを知らず、予定時間を大幅に延長して実施しました。

そこで、今回、報告レポート【ダイジェスト版】をご覧いただくにあたり、できる限り多くの方のご発言内容をお知らせしたいため、来月までの2回に分けてご報告します。

※ 市の公式ホームページでは 詳細版（全編）をご覧になれます。（上記 URL 等参照）

1 趣 旨

梓川地区の10年後について考えよう！

まちづくり協議会が改訂を進めている「梓川地区まちづくり10年計画(改訂案)*」の内容を4つのテーマに分け、各テーマに取り組んでいる団体等の代表者から市長へ、活動状況と10年後の夢について元気な声を届けていただくことを目的としました。

※ まちづくり10年計画は下記 URL または QR コードからご覧いただけます。

https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/life/92423_288214_misc.pdf



2 日 時 令和4年9月15日（木） 午後6時～8時30分

3 場 所 梓川公民館 多目的会議室

4 参加人員 臥雲市長ほか27名（事前の出席依頼者16名、傍聴者5名、関係職員6名）

※ 事前の出席依頼の団体等（テーマ順）

松本市梓川新規就農支援里親の会
農業委員
農業経営者、農業青年
加工組合さくら
梓川少年スポーツ教室
梓川地区まちづくり協議会
健康づくり推進員
あずさっ子見守り隊
町会サロン等のボランティア
消防団
梓弓研究会



5 こんだんのテーマ

テーマ1 農業振興、地産地消推進について

テーマ2 「梓川少年スポーツ教室」の取組み

テーマ3 全ての人にやさしいまちづくり

テーマ4 歴史・文化の学習や伝承による生涯学習（「梓弓研究会」の取組み）

※ 今月号はテーマ1と2の報告です。

6 発言の要旨

☆テーマ1 農業振興、地産地消推進について

～ 新しい農業の形、担い手育成、また女性が活躍できる環境づくりを進め地場産農畜産物の6次産業化の促進 ～

【松本市梓川新規就農支援里親の会】（以下「里親の会」）

JAと行政のねじれが梓川の農業に影を落としている！

- ・ 少子高齢化人口減少の中、農業の担い手不足は深刻になりつつあり、地区のりんご農家たちが里親の会を発足させた。
- ・ 梓川地区は合併後、行政は松本市、農協はJAあづみ管内であることから、農業政策の面で様々な矛盾を生んでいる。
- ・ 同じ松本市でありながら梓川以外の地区はJA松本ハイランド管内で、以前からJAの出資が多いこともあり市とタイアップした農業支援策を手厚く受けることができる。
- ・ 一方JAあづみは本所が安曇野市のためそれが難しく、梓川地区の農業者への支援が乏しいという現状である。
- ・ 合併前から梓川のりんごは「安曇野りんご」のブランドで売り出している上、現在でもJAあづみのりんごの5割は梓川産。
- ・ また、りんご農家の梓川の人230人の平均年齢は68歳でそのうち後継者がいる農家は3割。10年後までにもものすごい速さで荒廃農地が増加すると思われる。

<市長のコメント>

- ・ JAと行政のねじれが梓川地区の農業に大きな矛盾を生んでいることは認識している。課題は色々多いが、支援策が梓川だけへこんでいる状態は何とか解決していかなくてはならない。

【里親の会】

定年後の新規就農者にも支援を！

- ・ 新規就農者支援を受けられるのは45歳ころまでのため、会社を定年退職した年齢だと支援を受けられない。農業が好きで、会社をやめた後せっかく始めても、何の支援もなく農業機械も買えない中、裸一貫で日々荒廃農地と格闘している人たちに対しても何らかの支援策を考えてもらいたい。

<市長のコメント>

- ・ 新規就農支援に年齢制限を設けたのは、中長期的な後継者を育成する観点からの政策だと考えられるが、5年、10年という短期の耕作期間であっても農業をやりたい人ができるような、もう少し弾力的な政策を検討する必要があると思う。

【農業委員】

これ以上の耕作放棄を何としても阻止したい！

- ・ 農地は農地として適正に利用すべきだと考える。農地が一度耕作放棄されると再生するために多大な労力が必要となる。りんご畑が耕作放棄されたら木を切るしかない。何とか耕作の継続により次世代につなげていきたい。

地域の特色に沿った農業振興を！

- ・ 地域により農業の形は様々であるから、地域ごとの形態に合わせてどのような支援を

していくかという、地域ごとの視点を持った振興計画が必要ではないか。

地域の意見を聞いて圃場の再整備を！

- ・ 昭和40～50年代に構造改善がされてからすでに50年以上経ち、農地を延命していくのはかなり困難である。現在10～30アールの圃場を再整備により40～60アールにすることを希望する。国の補助事業等を見据え、地域の意見を聞きつつ、何らかの事業に着手していくべきだと思う。

<市長のコメント>

- ・ 農林業振興計画に地域の視点がないことは確かである。梓川の農地は広大であるため、具体的な振興策を検討する必要がある。
- ・ 構造改善事業など、市が積極的に市民の声を聴いて、事業の優先順位を決めてアクションを起こすべきというご意見はごもっともである。改めてやるべきことをやれるように担当課と話をしたい。

【スマート農業による農業経営者】

今後ますます必要性が高まるスマート農業！

- ・ 毎年耕作面積が増える中、限られた時間と人員の中で出来る限り農業生産の効率を高めるため、GPS 機器等の IT 技術を活用した合理化を図っている。
- ・ 田植え機の場合、GPS の活用で稼働率が従来は15%程だったのが50%まで上がったという実感である。
- ・ トラクターの場合も同様に、GPS により、耕うんした場所の履歴がわかるため、代かきの2週目など水が濁った時、また夕方暗い時でも適切な場所を耕うんすることができ大変効率が良い。

【加工組合さくら】

10年後も20年後も多くの人が楽しく働き続けられるために！

- ・ 加工組合さくらでは、女性たちが奮闘し、6次産業化に向けてがんばっているが、6次産業の申請から認定までが大変時間がかかるので、もう少し簡潔に、やりたい人が簡単に手が届くような支援をして欲しい。10年後も20年後もさくらで働き続けたい。80歳を過ぎても。(拍手)

絶え間ない努力と女性パワーで地域を元気に！

- ・ 女性パワーで邁進していきたい。そして、梓川にはさくらがあるんだと思ってもらえるようにしたい。常に新しい技術を研究して頑張りたい。

<市長のコメント>

- ・ さくらで女性たちが力強くご活躍されている姿には感銘を受ける。6次産業支援の申請、審査をもっと簡潔にスピーディーにというご意見はごもっとも。手続きの時間短縮のために必要なプロセスを具体的に精査し、出来ることがあれば具体的に改善していこうと思う。
- ・ 梓川村時代から独自に、特に女性の皆さんが主体的に取り組まれている加工所として、突出したブランドを目指すのではなく、地域の地産地消を大きな目的としていることは素晴らしいと思う。一定の付加価値を付け、地域の所得に貢献し、全市的に起業や雇用

のモデルになっていくという意味で、さくらの可能性を感じている。

☆テーマ2 「梓川少年スポーツ教室」(以下「スポーツ教室」という。)の取組み

～ 地区ぐるみで地区の子どもを育む、また今後の部活動の地域移行について～

剣道は生涯の生きがい!

- ・ 子どもたちが剣道を学ぶことによって、我慢する力、集中力、判断力、協調性などが身についていくと思うので、少しでもその道に近づけるように続けていきたい。
- ・ OBが父となり子どもと一緒に稽古を始めた人もいる。代々つながっていく喜びを噛みしめている。10年後の夢は、お互いに健康に剣道を楽しみながら未来へ向かって頑張っていくこと。

部活の地域移行の受け皿へ。使用料等のさらなる減免を!

- ・ 中学校の部活の地域移行ということが言われているが、既にスポーツ教室指導者が外部コーチとして指導に行っている。中学の先生方の負担が減る分、我々の負担は増えるという形なので、何らかの補助があればありがたい。
- ・ 合併後は自主運営となり、会場使用料や照明代の費用がかかる他、会場の予約も必要となった。児童・生徒からの会費で運営しているので、使用料や照明代を安くしてもらえるとありがたい。

スポーツで培われた強く生きる力!

- ・ 若い頃からバスケットボールを続けてきて、その時に頑張ったことが、今でも人生の中で苦しい時の力になっている。今日お集まりの方の中にもOBがおり、元気に活躍されていることが本当に嬉しい。
- ・ 子どもたちには、困ったことや悩みがあったらいつでも戻ってきなさいと言っていることもあり、来てくれるのが嬉しい。OB・OGが父になり母になり、戻ってきてくれることも本当に嬉しい。

<市長のコメント>

- ・ 来年度から中学部活が地域移行ということで、出来るところでは移行に向けて話合いを進めている。梓川は地域全体でスポーツ教室に取り組んでいることから、スポーツ教室が主に担っていく形になると思う。
- ・ 今まで学校部活で費用がかからなかった部分が外部コーチ費用、参加費等の費用がかかってくる。国としてどこまで支援するか、市としてはどうしていくかということを考える必要がある。出来るだけスポーツに金をかけずにやりたいスポーツを出来ることが心身の健康にも寄与すると思う。
- ・ 梓川の取組みを参考にして、今までの部活よりもっと魅力的な、指導者と子どもの関係を築いていって欲しいと思う。
- ・ 使用料等の減免についてご要望をいただいた。これから、部活の地域移行などにより新しい局面を迎えることになるが、その中で何をどう整理して、より良い方向に変えていくかということについて話合いを進めながら模索していきたいと思う。

(以下、テーマ3と4は来月号へ)